

# キャプナ★ニュースレター

春は出会いの季節。CAPNAでも、第4期電話スタッフ養成講座を修了した29人の方々が、CAPNAの電話スタッフの仲間入りをしました。1年間の研修を終え、子どもの虐待防止のために張り切っている皆さんです。よろしくお願いします。

春は、別れの時でもあります。東海市で木曜日と土曜日に行われてきた電話相談が、3月末で幕を閉じました。広報やスタッフ配置の面から、ホットラインを名古屋に一本化することになったためです。東海での相談に携わっていただいた方々には深く感謝をいたしますとともに、これからも名古屋でのホットラインの充実にご協力戴けますようお願いいたします。

CAPNA設立から2年間は、火曜日＝名古屋、木曜日＝東海の週2日しか電話相談を行うことができませんでした。小さな力でした。その後、養成講座を重ねて仲間が増え、財政基盤も次第に整って、名古屋に事務所を構え、全平日2回線の電話相談をできるようになったわけです。

CAPNAが、大勢の市民の方々に支えられ、ここまで発展してきたことを肝に銘じ、使命を果たしていきたいと思っております。

Vol. 28

## 4月の市民講座は「祖父江さんの言葉」

4月24日(木)午後6時30分から、CAPNA市民講座を名古屋市女性会館(中区大井町)で開きます。今回の講師は、故・祖父江文宏理事長の足跡を追い続けた名古屋テレビのカメラマン・村井航さん。「園長すけ・祖父江文宏の言葉」の演題で、映像をふんだんに紹介しつつ、祖父江さんの最後の数年間を振り返ります。村井さんが作られたドキュメンタリー番組『いのち輝くとき～小さい人へのメッセージ～』に涙した人も多いことでしょう。一周忌を前に、祖父江さんをしのびつつ「生きること」の意味、子どもを守ることを意味を、一緒に考えてみませんか。参加費は会員無料、一般500円。お問い合わせは、CAPNA事務局＝052(232)2880へ。

## 定例総会は6月1日・ウィルあいちで

CAPNA定例総会は6月1日午後1時から、名古屋市東区のウィルあいちで行います。設立8年目を迎えたCAPNAは岩城正光理事長のもと、地域に根ざした虐待防止ネットワークづくりに一段と力を入れています。会員の皆様、ぜひご参加ください。

総会の後、大阪大学助教授の西澤哲さんにご講演をいただきます。西澤さんは故・祖父江文宏理事長が脚本を書いた「アジャセ」のストーリーをもとに、親子の葛藤や心の救済について話されます。その講演の中で、CAPNA劇団がアジャセのハイライトシーンを朗読劇で紹介いたします。

## 26日に育児スタート支援プログラム専門講座

4月26日午前10時から午後4時30分まで、名古屋国際会議場234会議室(名古屋市熱田区白鳥)で、東京福祉大学教授のヘネシー澄子さんを講師に、専門家向けの講座を開きます。テーマは、アメリカ・オレゴン州の子育て支援活動。初めて子どもの親になった人たちを支援する綿密なプログラムによって虐待発件数を半減させた同州の取り組みを、午前中のヘネシーさんの講演で紹介し、午後のワークショップで、日本でのソーシャルアクションの戦略を検討していきます。参加費2000円。定員160人(先着順)。15日締切。

受講対象は、子育て支援の関係業務に従事している方(NPOボランティアや里親を含む)、または将来資格を取得して従事する見込みの方。お問い合わせはCAPNA事務局へ。育児スタート支援プログラム専門講座実行委員会主催。

ご寄付 次の皆様よりご寄付をいただきました。心よりお礼申し上げます。(1-3月)

【個人】(順不同、敬称略)

小山幸世、内川正邦、平野陽子、伍道軒圓玉、矢満田篤二、氏家昌子、高橋直紹ほか匿名5人

【団体】

名古屋市内22ロータリークラブ、春日井ロータリークラブ、名古屋空港ロータリークラブ、豊山城北ロータリークラブ、(社)名古屋東法人会女性部会役員会、名古屋キリスト教女子青年会、国際ソープチミスト名古屋、名古屋IIソングクラブ

CAPNAニュースレター28号 (隔月刊12号)

2003年4月10日発行

発行 特定非営利活動法人 子どもの虐待防止ネットワーク・あいち

編集 CAPNA広報チーム

事務局 〒460-0002名古屋市中区丸の内1-4-4-404 TEL052(232)2880、FAX052(232)2882

# 「査察」から「家族支援」へ

ブライアン・アシュレーさん講演

## 王立スコットランド虐待防止協会の歩み

2月のCAPNA市民講座で、イギリスの王立スコットランド児童虐待防止協会(RSSPCC)のコンサルタントで社会学者のブライアン・アシュレーさんをお招きして「マントルピースに置かれた石—RSSPCCの歩み」の演題で、講演していただきました。「マントルピースの石」といえば、昨年のCAPNA定例総会で、故・祖父江文宏が朗読したお話をご記憶の方も多いのでは。以下、アシュレーさんの講演要旨をお届けします。(副理事長 白石 淑江)

私は、長年、英国のRSSPCCのコンサルタントを務めてきましたが、協会が100歳の誕生日を迎えた記念に、その歴史を一冊の本に書き留めました。そして、その本のタイトルをスウェーデンの児童文学者A・リンドグレン(「長靴下のピッピ」の作者)のお話から「マントルピースに置かれた石」とつけました。なぜならば、これは、スウェーデン社会が、しつけの方法として体罰を容認してきた歴史を反省し、世界ではじめて体罰禁止法を制定するに至った時期に作られた物語だからです。昨年のCAPNAの総会で、故・祖父江理事長がこの物語を話されたことを知り、大変嬉しく思いましたが、今日お会いできなかったことは誠に残念です。

RSSPCCは、19世紀の産業化と都市化が進展する時代に発足しました。そのきっかけとなったのは、J・アブラハムという弁護士が、家族を連れてサーカスを見に行った時に、子どもの曲芸師が酷く打たれているのを目撃したことでした。彼は、サーカスのオーナーを告発しようとしたのですが、当時は児童労働者への虐待を防止する法律がなく断念したのです。しかし、その翌年の1881年、ニューヨークに滞在中の彼は、新聞で彼が告発しようとしたオーナーが、米国に設立したばかりの児童虐待防止協会の働きかけで逮捕されたことを知りました。そして、英国に戻った彼は、このような協会を設立させるために奔走し、1885年にRSSPCCの前身であるエジンバラ協会を設立させました。

20世紀を迎え、スコットランド全市に支部をもつ組織に発展したRSSPCCは、次々に持ち込まれる問題の対応に追われるようになりました。しかし、もはやボランティアメンバーで対応するのは困難であると判断した時点から、ボランティアはイベントや寄付金による資金集めを担当し、常勤スタッフを雇うことになりました。

常勤スタッフは、inspector(査察官)と呼ばれ、子どもを虐待する親を告発し、子どもを保護する役割を担うので、まずは軍隊や警官などの経歴をもつ成績優秀で厳格な男性が任命されました。査察官は、「冷酷な男」と呼ばれていたにもかかわらず、問題を抱える家族は彼らに相談をしました。彼らは地元市民であり、家族のことを知っていたので専門機関に比べて容易に手助けすることができたのだと思います。

しかし、組織が経験を積みにつれて、女性を雇う必要性が認識されるようになりました。

それも、査察官としてだけでなく、家族の支援者として訪問し、家計のやりくりや育児方法を改善するなどの支援を行ったのです。起用された女性は、



市民講座で講演するブライアン・アシュレーさん

地元の状態を把握し、家族により近い階層であったことは、興味深い点です。

1970年代になり、虐待行動は個人の責任に帰するのでなく、社会的な要因も含めて総合的に見ていく必要があることが理解されるようになりました。そして、米国のケンブ博士をお招きし、「被害児症候群」に関する講演会が行われました。博士は、親自身が幼少期に虐待を受けていたことが多いこと、ストレス状況に置かれていることが多く、そこでは被害体験から学んだ攻撃的な反応を出してしまうこと。こうした親は正常な子どもの行動についての知識が不足しており、親自身が理解ある治療を必要としていることなどについて述べられました。

この頃、スコットランドで社会福祉事業法が改定され、ソーシャルワーカーが地域社会の虐待防止活動に取り組みやすい条件が整備されることになりました。また、子ども審問制度(Children's Hearings System)が導入され、育成・保護が必要な16歳未満の児童、および非行児童への対応が、裁判所ではなく児童審問制度で行われることになりました。この制度は、今日もなお機能し続けていますが、子どもの権利を尊重し、子どもが自分の福祉に関する決定に関与することができるようにされています。また、自分の意思を表現できない年少児の場合には、代理人1名を任命しています。

このような行政的なシステムの充実にもよって、RSSPCCはこれまでの査察官の活動を取り止めました。法的な権限を持たずに、その活動を行うことは大きなプレッシャーがかかるからです。現在は、地域のソーシャルワーカーがその活動のすべてを行っています。その結果、RSSPCCの位置付けは家族の支援に変わりました。そして、ファミリー・センターを各地に設立し、支援を必要とする家族や子どもが自発的に通える場づくりを行う一方、「子どもを第一に(Children First)」という新しいテーマを掲げ、新たな活動を試みています。

\* RSSPCC=Royal Scottish Society for the Prevention of Cruelty to Children)

## 豊田保育者セミナー報告

理事 高橋 昌久

2月8日に、とよた市民活動センター及びとよた総合子育て支援センターを会場に「子どもを守る保育者の役割 CAPNA 保育者セミナー2003in とよた」を開催いたしました。定員30名のところ、豊田、岡崎を中心に57名のご参加をいただき、二つの分科会に分かれ、熱心に討論しました。

豊田ではこれまで、啓蒙活動として講演形式をメインにしたシンポジウムなどを開いてきました。しかし、講演終了後のアンケートで、参加者がより実践に即したものを希望されていることが多いことから、今回は「実際に虐待事例や疑わしい事例に直面したときに、保育者はどう動いたらいいのか」をテーマに、事例を2例保育者側より発表していただき、個々の事例に関する分科会で事例検討を行い、その後に出席者全員で全体ディスカッションを行いました。保育者自らがマイクが一番近いところにいる充実感のあるセミナーになったと思います。

また、児童相談センターからも参加者があり、保育者やCAPNA相談員と同じテーブルに座り事例について検討できたことは児童相談センターをより身近に感じるとともに、センターに任せきりにするのではなくセンターと連携を取りながら保育者が果たすことのできる「役割」をより具体的に理解できたと思います。今後も豊田だけではなく別の地域で、またCAPNAが主催するだけではなくCAPNAをオブザーバーとして参加させる形で地域が主催するこういった実践セミナーを開いていくことができたらと思います。

最後に、ご尽力いただきましたとよた総合子育て支援センターおよび子ども課のスタッフの皆さん、並びに快く後援していただいた豊田加茂児童相談センターに謝意を述べさせていただきます。

## あいち子どもの虐待防止研究会報告

常務理事 井上 薫(研究会事務局)

3月15日に、研究大会を同朋大学で開催しました。3つのプログラムを実施し、参加者は約130名でした。

鈴木美砂子さん(県立岐阜病院)は「虐待をする親への怒りのコントロールプログラム—子どもたちの安全と安心のために—」と題して、アメリカの民間機関での親援助プログラムのひとつであるAnger Managementプログラムを紹介していただきました。

菱田理さん(晩学園)からは「癒しの養護に向かって」と題して児童養護施設での実践について密度の濃いお話をさせていただきました。

安藤由紀さん(PEACE暴力防止トレーニングセンター、絵本作家)からは「性的虐待を受けた子どもへのかかわり—支援者として—」と題して、性的虐待を受けた子どもに接する支援者としての大人のあり方、モチベーションを高めるためのワークショップを行っていただきました。被害にあった子どものサポートのための、治療機関の職員・教師・保護者それぞれの効果的な話の聞き方のガイドラインの提示や、支援者として2次的トラウマを防ぐ方法など、実践的であり、参加者の癒しまで配慮したヒューマンなワークでした。

「あいち子どもの虐待防止研究会」は、日本子どもの虐待防止研究会(JaSPCAN)あいち大会終了後、その成果を地元で継承・発展させることを目的に、大会企画委員らが世話人となって発足。専門職・研究者を対象に研究会活動を開始し2年になります。英文略称はASPCANです。

CAPNAメンバーも多く参加していただいております。発送などの大変な作業もお手伝いいただいておりますが、CAPNAとは別組織です。混同されている方もいらっしゃるかもしれませんが、お間違えにならないように。研究会の参加費も、CAPNA会員割引はありませんのでご了承ください。

2003年度も、ともに学びあいのネットワークを築きましょう。